

# Corporate Profile



**AKASHI**  
**School Uniform**  
**Company**



## AKASHI School Uniform Company



### Corporate Message

高品質・高付加価値のモノづくりを支える3つのポリシー

#### 変わり続ける 変わらない服

当社が手がける「制服」は、学校現場の要望を的確に反映させた企画提案力と商品開発力により、多くの方々から高い評価と信頼をいただいています。学校オリジナル制服の企画提案においても、多様化する時代のニーズに敏感に反応し、常に製品価値を高める工夫が欠かせません。私たち<AKASHI S.U.C.>は、誠実さを尊ぶ企業ポリシーを変えることなく、常に進化を続ける制服を提案していきます。

#### J☆PROUD 日本製への誇り

<AKASHI S.U.C.>は、日本独自の文化ともいえる学校制服について、「素材(開発)」「加工(染色等)」「縫製」と、すべての工程を原則、日本国内で行っています。当社の学校制服はこれら3つの要素が揃った純粋な日本製品であり、私たちはその品質と社会的意義に誇りを持っています。その発信地は、学生服の他ジャンルでも全国的に知られる繊維産地、倉敷市児島。「倉敷発日本製」は、日本の優れた素材や縫製技術と、確かな国内生産基盤によって生まれる信頼の証です。

#### 一針一心

数年間に渡ってご着用いただく「制服」。<AKASHI S.U.C.>は、何十万点の製品を生産しようとも、最終的な一人一人のお客さまの「満足」を求めて、製品の一着一着に真心を込め、品質第一主義のモノづくりを心がけています。その精神は、当社の創業創業150年の歴史の中で脈々と受け継がれてきたものであり、次の世代、さらにその次の世代へと継承していきたいと願っています。



## 制服をつくるということ

私たちの会社は倉敷市児島で誕生し、成長してきました。  
そして、これからもこの地で制服をつくり続けます。  
私たちは制服を通じて、学校を応援し、社会に貢献します。  
そして、何よりも生徒たちの笑顔が見たい。  
私たちがつくった制服は、生徒たちの教育のために。  
そして、その明るい未来のために。

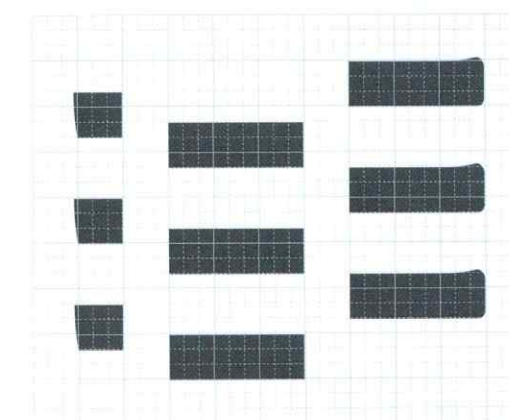
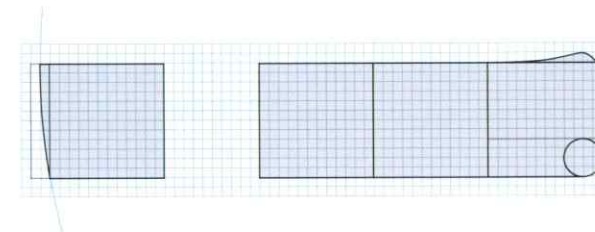


## AKASHI School Uniform Company Ltd.

### Corporate Identity

新しいシンボルマーク、デザインのモチーフは3つの「一」でした。

明石被服興業株式会社(事業持株会社)より分社・設立された新会社<AKASHI S.U.C.>のシンボルマーク。デザインの由来は社名の「明石スクールユニフォームカンパニー」にあります。お気づきでしょうか。「スクール」「ユニフォーム」「カンパニー」、3つの単語のそれぞれに長音符「ー」があります。伸ばし棒とも呼ばれるこの3つの長音符を縦に並べ、高低差をつけて分割したのがこのシンボルマークです。この伸ばし棒の両端には明朝体の要素が取り入れられており、長音符の証として、このマークのひとつの特徴にもなっています。



3つの長音符が意味するのは、未来の叡智を育む「学校(スクール)」、日本の文化ともいえる「制服(ユニフォーム)」、新会社に集う「社員や仲間たち(カンパニー)」です。これらが相互に重なり支え合う新しいシンボルマークは、その全体形状から、会社の新たな旗印(フラッグ)となることを願って「フラッグマーク」と呼んでいます。そのもとに集う私たちの思いはひとつ。快適を究めた制服で、お客様(ユーザー様)に笑顔が生まれること、それを第一の使命と考えています。







**1865**  
明石役造が小倉・真田帯地、  
細紐類の製造業「西屋」を創業

AKASHIグループのルーツは慶応元年、明石役造が細紐(主に真田紐、刀の下げ緒・帯締め・帯留用の紐)などを製造する織物業(丸西織物工場「西屋」)を創業することに始まる。備前児島では、江戸中期頃から綿製品である真田紐や足袋の生産が盛んになり、明治中期頃まで、金毘羅さんとの両参りで栄える「由加山」の参詣人が児島特産の真田紐・小倉織などを盛んに買い求めた。明治以降、洋装が広まるまで、この織物工場が事業の礎となる。後に、初代・明石歎太郎によって、「明石歎太郎商店」と名称変更(1901年)。



**1932**  
明石歎太郎商店被服部発足  
学生服の製造開始(被服業創業)

「明石歎太郎商店」に加わった歎太郎の長男・稔と次男・登が、「全国を相手にさらに大きな商いを目指そう」と、この年(昭和7年)、学生服を製造する被服部を発足させた。実家の納屋にミシン10台を持ち込んで、先行メーカーの下請けである「組縫」としてのスタートだった。本格的に製造メーカーとして学生服の生産を始めるのはその2年後、1934年(昭和9年)になる。ちなみにこの当時の学生服は写真(左)のような厚司織の霜降りが主流で、一着の相場は28~30銭、極上物で65銭だった。



**1944**  
明石被服興業株式会社を設立

昭和19年、明石被服興業株式会社が設立され、社長に初代・明石歎太郎が就任する。その後1950年(昭和25年)に、長男・河合稔が二代目社長となり事業を拡大。1951年(昭和26年)には「富士ヨット」を商標登録し、その翌年、合織による「富士ヨット学生服」の生産・販売が開始される。(東洋レーヨン全国ナイロン学生服5社系列に加入)。

**1955**  
宣伝カーによる販促活動がスタート



昭和20年代後半からスタートした各社の宣伝戦略の中でも、明石被服興業の隠し球がオリジナル宣伝カーによるPR活動だった(昭和30年)。ボディの側面にはロゴや装飾画が塗装されていた。ベースは、トヨタの「トヨベツト・マスターラインRR16型(変型)」。3台あるうちの1台には、夜になるとルーフ部分に電球が灯る装飾も施されていた。こうした宣伝カーが北海道から九州まで全国津々浦々を駆け巡り、「富士ヨット」ブランドを一気に浸透させていった。

**1969**  
宇部工場竣工



1966年ビートルズが、翌67年には「ミニスカートの女王」ツイッギーが来日。彼らの出現により、タブー視されていた男子の長髪や短いスカートが市民権を得るなど、自由を謳歌するカルチャーが芽吹いていく。こうした傾向は学生服市場にも少なからず影響を与え、学生服離れが進んで行く。そんな逆境の中、1969年(昭和44年)に8億円という巨費が投じられ、西日本随一の規模を誇る宇部工場が完成した。(後、2001年に新宇部工場竣工、コストダウンを図り国内生産を強化)

**1988**  
森英恵氏とデザイン提携



1986年(昭和61年)、明石被服興業は自社出版による「制服革命」を刊行。本書の中で「スクール・アイデンティティ(SI)」というコンセプトを提唱した。これにより、ファッション性豊かで生徒が自主的に着てみたいと思え、さらに学校を象徴するアイテムとしての新しい学校制服の提案を行うことを目指した。そして1988年(昭和63年)、日本を代表するデザイナー・森英恵氏とコラボレートし、「ハナエモリ・スクールジェンヌ」を発表する。

**2015**  
AKASHI S.U.C. 始動



創業創業から150周年を迎えた明石被服興業株式会社から、新会社「AKASHI S.U.C.」が誕生。企画・営業部門を分割承継し、販売会社を合併・統合、営業体制を強化した。AKASHIグループのネットワーク再構築により、営業活動を高度に標準化、マーケティング力を強化して多様なニーズに対応。さらに、グループ力の向上とともに事業単位における責任体制を明確にし、最適な戦略立案と迅速な意思決定を実現していく。(2015年6月1日業務開始)

沿革

- 1865年(慶応元年) 明石役造により、小倉・真田帯地、細紐類の製造開始(祖業創業)
- 1901年(明治34年) 初代・明石歎太郎のもと、「明石歎太郎商店」に名称変更
- 1932年(昭和7年) 学生服製造業開始(被服業創業)
- 1944年(昭和19年) 明石被服興業株式会社を組織(株式会社設立)
- 1951年(昭和26年) 「富士ヨット」を商標登録 他に、「アサヒヨット」「赤富士」
- 1952年(昭和27年) 東洋レーヨンの全国ナイロン学生服5社系列に加入(後に10社)
- 1955年(昭和30年) 全国で宣伝カーによるPR活動開始
- 1961年(昭和36年) 工場拡大にともない最新式設備(シンクロシステム)導入
- 1969年(昭和44年) 西日本一の規模を誇る宇部工場 竣工
- 1984年(昭和59年) 裁断の効率化を図る為、エアーフローティングシステム導入  
(有)明石ソーイング 設立
- 1986年(昭和61年) 最新設備を備える本社工場増築完了 グレーディングシステムを導入  
「制服革命」~学生服の歴史と現代、今後の制服の役割~ 発刊
- 1987年(昭和62年) 本社第2配送センター 新設(現:O蔵)  
プレザー用自動仕上げプレス機導入
- 1988年(昭和63年) 森英恵氏とデザイン提携「ハナエモリ・スクールジェンヌ」発表
- 1989年(平成元年) (有)久米南ソーイング 設立
- 1992年(平成4年) 第1配送センター鉄筋7階建 竣工(現:本物流センター)
- 1993年(平成5年) 沖縄県にアクシーズ(株)西崎工場 竣工(現:(株)アクシーズソーイング)
- 1996年(平成8年) 明石記念館 開設  
(有)阿蘇ソーイング 設立
- 1997年(平成9年) 本社営業本部事務所の改装完了(第11回日経ニューオフィス賞受賞)  
カジュアル展示室・学校制服展示室が完成し7展示室となる(1,300㎡)  
CAD(コンピュータ支援設計)システム導入
- 1998年(平成10年) 関連会社日邦産業(株)を吸収合併、企業ユニフォーム部門の充実を図る  
第3配送センター 新設  
CAM(コンピュータ支援生産)システム導入
- 1999年(平成11年) 学生服メーカーとして初めてISO14001認証取得
- 2000年(平成12年) 本社工場屋上に太陽光発電システム設置
- 2001年(平成13年) 最新鋭機器導入し新宇部工場 竣工  
GPN大賞中小企業部門入賞
- 2003年(平成15年) 畠山巧氏とデザイン提携「テ・アッシュ・デラ メゾン アカデミック」発表  
大阪支店 自社ビル 移転
- 2004年(平成16年) 岡山エコ事業所第一号 認定  
新物流センター 竣工(現:A蔵) 東京支店 自社ビル 移転  
スクールスポーツ部「デサント」ライセンス契約
- 2005年(平成17年) 日本ライフセービング協会(JLA)のパートナー企業として承認  
河合美術館 開設
- 2006年(平成18年) (株)マルゴを資本系列下の学生服専門小売店とする  
オゴー産業(株)および(株)勝山ソーイング 設立
- 2008年(平成20年) さくら工場 竣工
- 2009年(平成21年) 群馬ヨット服(株)設立(現:群馬営業所)  
健康増進センター 開設
- 2010年(平成22年) 静岡営業所 開設  
(有)阿蘇ソーイング リニューアル
- 2011年(平成23年) 四国ヨット服(株)自社ビル 移転(現:四国支店)  
青森営業所 開設
- 2012年(平成24年) 宇部TAC(テクノパークアソートセンター) 竣工  
メディカルケアウェアで「ルコックスポルティフ」ライセンス契約
- 2013年(平成25年) 倉敷和蔵アソートセンター 新設
- 2014年(平成26年) 岡山支店 開設 (株)津山ソーイング 設立  
富士ヨット(株)自社ビル 移転(現:鹿児島支店)  
明石スクールユニフォームカンパニー(AKASHI S.U.C.)設立(12月1日)
- 2015年(平成27年) 企画・営業部門を分社化したAKASHI S.U.C.業務開始(6月1日)  
PRキャラクター 誕生(イラスト:深崎 暮人 氏)
- 2016年(平成28年) アクシーズソーイング第二工場 竣工  
名古屋支店 自社ビル 移転  
人気アイドルグループの衣装制作会社「オサレカンパニー」と提携「O.C.S.D」発表
- 2017年(平成29年) 学生服専門店(株)制服のワタナベ 設立
- 2018年(平成30年) (株)タクミソーイング 設立 広島営業所 開設





子供たちに感動を与える制服がここにあります。

富士ヨット学生服

個人のお客様向けに。富士ヨット学生服でおなじみの、既製服ブランドを展開しています。



### 詰襟学生服

始まりは明治時代。詰襟は、もとは欧州から流入してきた洋服文化のいちスタイルに過ぎませんでした。しかし、これまでの日本の制服の歴史の中で独自に発展してきた詰襟学生服は、もはや日本特有の文化として根づいており、今も男子学生服の主役であることに変わりありません。その代名詞とも言える「富士ヨット学生服」。AKASHI S.U.C.が自信をもってお届けする技術の真髄が、ここにあります。



### 女子学生服

男子の詰襟学生服に対して、女子のセーラー服も日本の制服文化の象徴と言って過言ではありません。今では日本アニメの影響で「Sailor fuku」として、国境を越え世界の標準語になりつつあります。AKASHI S.U.C.では、女子学生服としてふたつのブランドをラインナップしていますが、どちらも日本のセーラー服の象徴としてふさわしい「品格」と「可愛らしさ」を兼ね備えた自信の逸品です。



### 小学生服

小学校の入学式には特別な感動があります。初めて制服に身を包んだ我が子を見て涙するお父さん、お母さんも少なくありません。ちょっとサイズが大きめの真新しい制服は、いわば、子供の成長への期待の表れなのです。これからの6年間、子供たちは制服とともに、さらに大きく成長していきます。私たちAKASHI S.U.C.は、子供たちの成長を温かく見守るような、そんな小学生服をご提案していきたいと思っています。



学校制服、体育服ともにコンセプトは「快適を究める」。

学校関係のお客様向けに。学校制服のモデルチェンジ・マイナーチェンジをご提案いたします。



### 学校がブランド、生徒が主役。

学校制服も体育服も、学校オリジナル制服の完成・納品までには様々なプロセスがあります。AKASHI S.U.C.は生徒・学校・保護者とのコミュニケーションを大切に考えています。三者それぞれの要望を取り入れた制服の提供こそが私たちの目指すところです。製品開発では、常に快適を究めたモノづくりを心がけ、生徒さんの健やかな学校生活を応援していきたいと考えています。学校が子供たちの教育の場であることはいつの時代も変わりません。しかし、少子化の時代を迎え、学校の教育スタンスにも変化の兆しが見え始めてい

ます。制服の持つ役割も少しずつ変わろうとしているのかもしれませんが。これからの時代に私たちが提案するのは、「学校を象徴する制服」「生徒が輝く制服」です。AKASHI S.U.C.は制服を通じて学校の魅力アップのお手伝いをしたいと考えています。私たちは制服メーカーですが、ただ単にモノを作り販売しているだけではありません。スタッフひとりひとりが、「教育産業の一端を担う大切な学校制服を取り扱う」という自覚と誇りを持っています。だからこそ、商品の完成・納品が終点ではなく、制服を納めたその先に何ができません。しかし、少子化の時代を迎え、学校の教育スタンスにも変化の兆しが見え始めてい

### ショールームのご案内

倉敷市児島の本社ビル1階に「全国実例校展示場」があります。全国1300校以上にのぼる学校制服納品校のうち約100校の採用実例を展示し、「近年の傾向が手に取るようにわかる」とご好評をいただいています。3階の「常設展示場」では、学校制服の新デザインや最新素材の提案も行っています。その他にも、数万点に及ぶサンプルストック「コレクションスペース」、制服プレゼンテーション専用の「クリエイションルーム」があり、全国から多数の方々にご来場いただいています。また、東京支店、名古屋支店及び大阪支店内にも、それぞれ常設展示場を設置しています。

### 体育服

体育の授業だけではなく、意外と日常的に着用頻度が高い体育服。特に小学校では、学校制服を着ている時間より長いこともあるほど。今や体育服は学校において「第二の制服」なのです。AKASHI S.U.C.では学校制服と変わらない情熱をもって、この体育服の開発にあたっています。子供たちが卒業した後、「私たちの体育服は着心地がよくてカッコ良かった」と思えるような、思い出の詰まった体育服を提供してまいります。





さまざまな業界の多様なニーズに対応するユニフォーム。

企業や医療現場、地域で活躍するお客様向けに。あらゆる職種に「快適」をご提供いたします。



### 作業服（企業向けユニフォーム）

企業向けユニフォームは、防汚対策や視認性・安全性のみならず、企業の理念やイメージを明確に伝えるという役割を持ち、職場のモラルアップにも貢献できるなど、今、その重要性が再認識されています。職種によって求められる機能は多種多様ですが、ポケットの形や位置、またボタンの選定など、どれひとつとして妥協は許されません。長年、学生服の製造を通じて培われた高品質なモノづくりの伝統が、ここにも確かに息づいています。



### 介護服（ケアウェア）

抱きかかえる、引っ張りあげる、かがんで支える。日々の介護（ケア）現場では、実にさまざまな姿勢での動作が求められます。そんな献身的なスタッフの日常をサポートするケアウェアには、運動性を始め、通気性や吸汗性、そして洗濯耐久性はもちろん、介護する人とされる人が心を通わせ明るい気持ちになれるような、カラーやデザインの配慮も欠かせません。少子高齢化社会を迎え、衣服で貢献できる分野として、私たちの特別な思いが込められています。

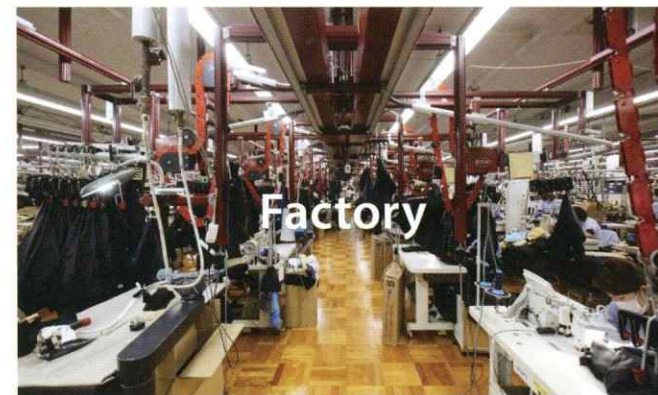


### 看護服（メディカルウェア）

24時間、ハードな医療現場で求められるのは、「着心地」「機能性」「耐久性」そして「安全性」です。それらの要素をすべて満たすのはとても難しいことですが、人の命を預かる職業だからこそいつも安心感のある一着でありたいと考え、人の動きを解析した人間工学に基づくメディカルウェアを提供してまいります。また、チームで活躍するユニフォームという視点のもと、ウェアによって、医療現場に新たな活力と、強い絆や信頼が生まれることを目指しています。

生産と物流がかみあった理想的な体制を構築。

AKASHI S.U.C.は、あくまでも日本製にこだわり、主幹工場である宇部工場、さくら工場、制服工房くらしきの他、6つの関連工場が高品質なモノづくりを心がけています。しかし、国内生産体制の拡充だけでは、お客様（ユーザー様）のさまざまなニーズに応えきることができません。生産と物流、このふたつが高いレベルでかみあって、初めてお客様の満足を得ることができると考えています。



AKASHI S.U.C.の製品づくり、その生産体制を支えるのが3つの主幹工場と6つの関連工場です。特に生産の主力となる宇部工場、さくら工場、制服工房くらしきの3工場（主幹工場）を始め、担当アイテムによって製造工程が異なるすべての各工場が互いに切磋琢磨することで、AKASHI S.U.C.の高品質・高付加価値の製品づくりを実現しています。

AKASHI S.U.C.の製品群には、スクールユニフォーム（学校制服）、スクールスポーツウェア（体育服）以外にも、メディカルウェア、ケアウェア、ワーキングウェア、オフィスウェアなどがあります。それぞれの製品特性やお客様のご要望に合わせ、岡山県と山口県内の物流拠点5カ所が互いに分担・連携しながら、確実・迅速なデリバリーを実現いたします。



### Factory 生産体制

AKASHI S.U.C.では日本製にこだわり、素材の調達から、加工、縫製にいたるまで、すべての工程を日本国内で行う製品も少なくありません。優れた技術と最新の機器を備えた自社工場のスタッフが、高品質・高付加価値のモノづくりを追求しています。最新の機器を導入しながら作業の効率化を

現し、一方で、長年受け継いできた職人の技術を生かしていく。すなわち、極めて複雑なプロセスをもつ制服づくりを支えているのは、現代の高度な「メカニック・テクノロジー」と経験豊かな「人による伝統技術」の融合に他なりません。これこそが「メイド・イン・ジャパン」の本質だと言えます。



### Logistics 物流体制

AKASHIグループの物流体制は、「B to BからB to Cへ」を基本コンセプトに、お祝い品でもある学校制服や体育服、人を優しく癒すためのメディカルウェア、ケアウェアなどを、お客様（ユーザー様）にお届けする最終走者の役割を担っています。お客様に心からご満足いただくためには、従来の配送セン

ターの枠にとらわれない高度な物流機能が必要です。私たちは「物流を究める」ため、日々工夫を重ねています。私たちが目指すユーザー様直結型の物流センターは、多品種・小ロット・多頻度の出荷を可能にし、商品を単なる「荷物」ではなく、「真心のこもった完成品」としてお届けします。



**AKASHI S.U.C.**

AKASHI S.U.C.は、全国に営業ネットワークを構築してマーケティング力を強化することにより、幅広く緻密な情報収集を行いながら、多様な顧客ニーズにも的確に対応します。



**札幌支店**  
〒063-0846  
北海道札幌市西区八軒六条西9丁目1-7  
TEL:011-633-2001 FAX:011-633-2008



**東京支店**  
〒103-0006  
東京都中央区日本橋富沢町5-5  
TEL:03-5695-5300(代) FAX:03-5695-5301



**本社** 〒711-8611 岡山県倉敷市児島田の口1丁目3-44  
TEL:086-477-7702(代) FAX:086-477-5663



**名古屋支店**  
〒452-0839  
愛知県名古屋市中区見付町120  
TEL:052-506-7811 FAX:052-501-7272



**大阪支店**  
〒564-0051  
大阪府吹田市豊津町18-12  
TEL:06-6337-7900(代) FAX:06-6337-7903



**岡山支店**  
〒700-0973  
岡山県岡山市北区下中野1222-5  
TEL:086-239-2233 FAX:086-239-2234



**四国支店**  
〒761-8075  
香川県高松市多肥下町1519-2  
TEL:087-867-9351 FAX:087-867-9353



**福岡支店**  
〒813-0034  
福岡県福岡市東区多の津1丁目8-6 福岡流通センター内  
TEL:092-622-2521(代) FAX:092-624-1130



**鹿児島支店**  
〒891-0115  
鹿児島県鹿児島市東開町5-14  
TEL:099-260-2951 FAX:099-267-5595

明石被服興業株式会社は、分社化によって、企画および営業部門を担う株式会社明石スクールユニフォームカンパニー(AKASHI S.U.C.)と、製造・物流部門を担う明石被服興業株式会社(AKASHI H.K.C.)となり、相互に専門性を強化しながら、グループ総合力による高い企業価値を追求してまいります。



**AKASHI H.K.C.**

目指すのは生産性と品質の向上。そして様々なニーズに対応した物流体制。



**さくら工場**  
〒711-8611  
岡山県倉敷市児島田の口7丁目1-11  
TEL:086-477-7919(代) FAX:086-477-7944



**制服工場くらしき**  
〒711-8611  
岡山県倉敷市児島田の口1丁目3-44  
TEL:086-477-7731



**宇部工場**  
〒759-0207  
山口県宇部市大字際波2420  
TEL:0836-41-7311(代) FAX:0836-45-0001



**本物流センター**  
〒711-8611  
岡山県倉敷市児島田の口1丁目3-44  
TEL:086-477-7955 FAX:086-477-7763



**A蔵**  
〒711-0903  
岡山県倉敷市児島田の口1-10  
TEL:086-477-7980 FAX:086-477-4701



**和蔵AC**  
〒711-0906  
岡山県倉敷市児島下の町1丁目12-27  
TEL:086-474-0020 FAX:086-474-0030



**宇部TAC**  
〒759-0132  
山口県宇部市大字山中700-14  
TEL:0836-62-5075 FAX:0836-62-5076



**宇部工場倉庫**  
〒759-0207  
山口県宇部市大字際波2420  
TEL:0836-41-7525 FAX:0836-41-7449

**営業拠点**

- 函館営業所** 〒041-0851 北海道函館市本通1丁目44-15  
TEL:0138-55-8585 FAX:0138-55-8587
- 旭川営業所** 〒078-8391 北海道旭川市宮前1条4丁目15-33  
TEL:0166-73-5791 FAX:0166-73-5792
- 帯広営業所** 〒080-0013 北海道帯広市西3条南12丁目6-6 JRイン帯広1階  
TEL:0155-28-4840 FAX:0155-28-4842
- 青森営業所** 〒030-0966 青森県青森市花園2丁目22-21  
TEL:017-765-5522 FAX:017-743-6755
- 仙台営業所** 〒983-0043 宮城県仙台市宮城野区萩野町2丁目3-3  
TEL:022-231-6721 FAX:022-231-6726
- 秋田営業所 秋田店** 〒010-0912 秋田県秋田市保戸野通5-33  
TEL:018-863-2132 FAX:018-863-2133
- 秋田営業所 横手店** 〒013-0042 秋田県横手市前郷字上三枚橋21-1  
TEL:0182-36-9315 FAX:0182-36-9316
- 福島営業所** 〒960-8074 福島県福島市西中央3丁目72-3  
TEL:024-533-4010 FAX:024-533-7778
- 茨城営業所** 〒305-0051 茨城県つくば市二の宮1丁目3-6  
TEL:029-854-0520 FAX:029-854-0552

- 宇都宮営業所** 〒321-0921 栃木県宇都宮市瑞穂1丁目16-1  
TEL:028-657-5030 FAX:028-656-8808
- 群馬営業所** 〒370-0006 群馬県高崎市同屋町1丁目3-5  
TEL:027-361-4720 FAX:027-361-9694
- 新潟営業所** 〒950-0855 新潟県新潟市東区江南6丁目1-5  
TEL:025-286-2105 FAX:025-286-2107
- 北陸営業所** 〒920-0381 石川県金沢市中屋2丁目144  
TEL:076-214-3720 FAX:076-214-3721
- 静岡営業所** 〒422-8004 静岡県静岡市駿河区国吉1丁目2-36  
TEL:054-655-2977 FAX:054-655-2978
- 豊橋営業所** 〒440-0083 愛知県豊橋市下地町境田113-1-2  
TEL:0532-57-2131 FAX:0532-57-2132
- 三重営業所** 〒515-0005 三重県松阪市鎌田町字天神688-1 ヴィラNOA102  
TEL:0598-53-9341 FAX:0598-53-9041
- 滋賀営業所** 〒520-0841 滋賀県大津市美崎町7-18  
TEL:077-537-3714 FAX:077-534-6587
- 姫路営業所** 〒670-0026 兵庫県姫路市岡町47-7  
TEL:079-299-0811 FAX:079-299-0812

- 和歌山営業所** 〒640-8323 和歌山県和歌山市太田1丁目6-13  
TEL:073-472-5213 FAX:073-472-5893
- 広島営業所** 〒730-0017 広島県広島市中区鉄砲町1-20 第3ウエノヤビル10階  
TEL:082-962-7076 FAX:082-962-7077
- 宇部営業所** 〒759-0207 山口県宇部市大字際波2420  
TEL:0836-41-4010 FAX:0836-41-9590
- 徳島営業所** 〒770-0006 徳島県徳島市北矢三町3丁目6-51  
TEL:088-633-1815 FAX:088-633-1858
- 松山営業所** 〒790-0062 愛媛県松山市南江戸2丁目1-24  
TEL:089-913-5700 FAX:089-913-5703
- 熊本営業所** 〒862-0947 熊本県熊本市東区画図町重富567-3  
TEL:096-334-1350 FAX:096-334-1351
- 大分営業所** 〒870-0161 大分県大分市明野東1丁目2-43 明野ガーデンテラスビル1階  
TEL:097-556-9088 FAX:097-556-9098
- 宮崎営業所** 〒880-0814 宮崎県宮崎市江平中町5-15  
TEL:0985-27-9935 FAX:0985-27-9937
- 沖縄営業所** 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4丁目22-5  
TEL:098-840-8815 FAX:098-840-8817

**関連会社**

- オゴ産業株式会社** 〒711-0903 岡山県倉敷市児島田の口1-11  
TEL:086-477-7711 FAX:086-477-7765
- 株式会社制服のワタナベ** 〒438-0048 静岡県浜松市東区上西町21-2  
TEL:053-462-1676 FAX:053-463-8264
- 有限会社明石ソーイング** 〒719-1137 岡山県総社市駅南2丁目26-11  
TEL:0866-93-2861 FAX:0866-93-2861
- 株式会社勝山ソーイング** 〒717-0014 岡山県真庭市柴原416-2  
TEL:0867-44-2880 FAX:0867-44-5220
- 有限会社久米南ソーイング** 〒709-3614 岡山県久米郡久米町下月形17-1  
TEL:0867-28-2246 FAX:0867-28-2246
- 株式会社津山ソーイング** 〒708-1126 岡山県津山市押入684-7  
TEL:0868-26-5120 (代) FAX:0868-26-5335
- 株式会社タクミソーイング** 〒755-0028 山口県宇部市東本町1丁目3-1  
TEL:0836-32-0115 FAX:0836-32-4541
- 有限会社阿蘇ソーイング** 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮宮地4613-14  
TEL:0967-22-1464 FAX:0967-22-1464
- 株式会社アキーズソーイング 第1工場** 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町5丁目3-5  
TEL:098-992-0881 FAX:098-992-0883
- 株式会社アキーズソーイング 第2工場** 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4丁目22-5  
TEL:098-840-3978 FAX:098-840-3977

**関連工場**



Top Message

品格ある行動を信条に、積極的にチャレンジする企業でありたい。



株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー  
明石被服興業株式会社  
代表取締役社長 河合 秀文

2015年、祖業創業150周年を迎えるにあたり、新会社「AKASHI S.U.C. (株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー)」を発足させました。長年に渡って皆様にご愛顧いただいております「明石被服興業株式会社」は引き続きグループの中核会社・事業持株会社として、生産・物流、及び管理部門を担当し、新会社「AKASHI S.U.C.」は全国の皆様への販売窓口となります。

今後も少子化の続く日本ではありますが、あらためて「学校制服」の意義、効用を追究し、日本独自の文化である「制服」一筋に生きる会社であることを強くアピールしてまいりたいと思います。その活動のベースとして、このたび新しく「Active & Smart(アクティブ&スマート)」というスローガンを掲げました。社員ひとりひとりが、[Active]=積極的にチャレンジするスピリットを有し、[Smart]=何ごとにも誠実さと品格をもって対応できる。そんな企業でありたいと私たちは考えています。

「誠実と信頼」こそが企業活動の基盤であり、かつ品格のある行動を信条として、安定した経済社会の実現に向けて貢献することが当社の使命であります。皆様の末永いご支援をお願い申し上げます。

Mecenat Activity

制服を通じて社会貢献活動に取り組んでいます。

子供たちはいつの時代も社会の希望です。私たちAKASHIグループは、制服を通じて子供たちの育成に携わっていることに、誇りと喜びを感じています。だから、いつも願うのは子供たちの健康と安全です。日本だけではなく世界の子供たちが、戦争や貧困に脅かされることなく、健やかに生活してほしい。私たちは、未来のために、社会文化の向上のために、メセナ活動にもしっかりと取り組んでまいります。



©UNICEF/Benini/NYHQ2006-2866/Julie Pudowski 提供:(公財)日本ユニセフ協会

国際連合児童基金 (Unicef)

学校制服は日本独自の文化です。しかし、私たちが健康と安全を願う子供たちに国境はありません。今も世界では、5歳未満児の4分の1にあたる1億6400万人の子供たちの発育が阻害され、小学校に通えない子供たちの数は5800万人に達します。AKASHI S.U.C.は、こうした厳しい環境下にある子供たちをバックアップするユニセフ(国際連合児童基金)への支援キャンペーンを行っています。



日本ライフセービング協会 (JLA)

海や川、プールでの水難事故を減らすため、AKASHI S.U.C.はJLAの活動をサポートし、「パートナー企業」としての承認を受けました。さらに「安全と安心」をテーマに、スクールスポーツウェアおよびその関連商品として、「JLA SAFETY PRODUCTS」の開発を行っています。また、ライフセーバーの資格を有する社員を中心に、地域の環境保全や安全活動にも協力しています。



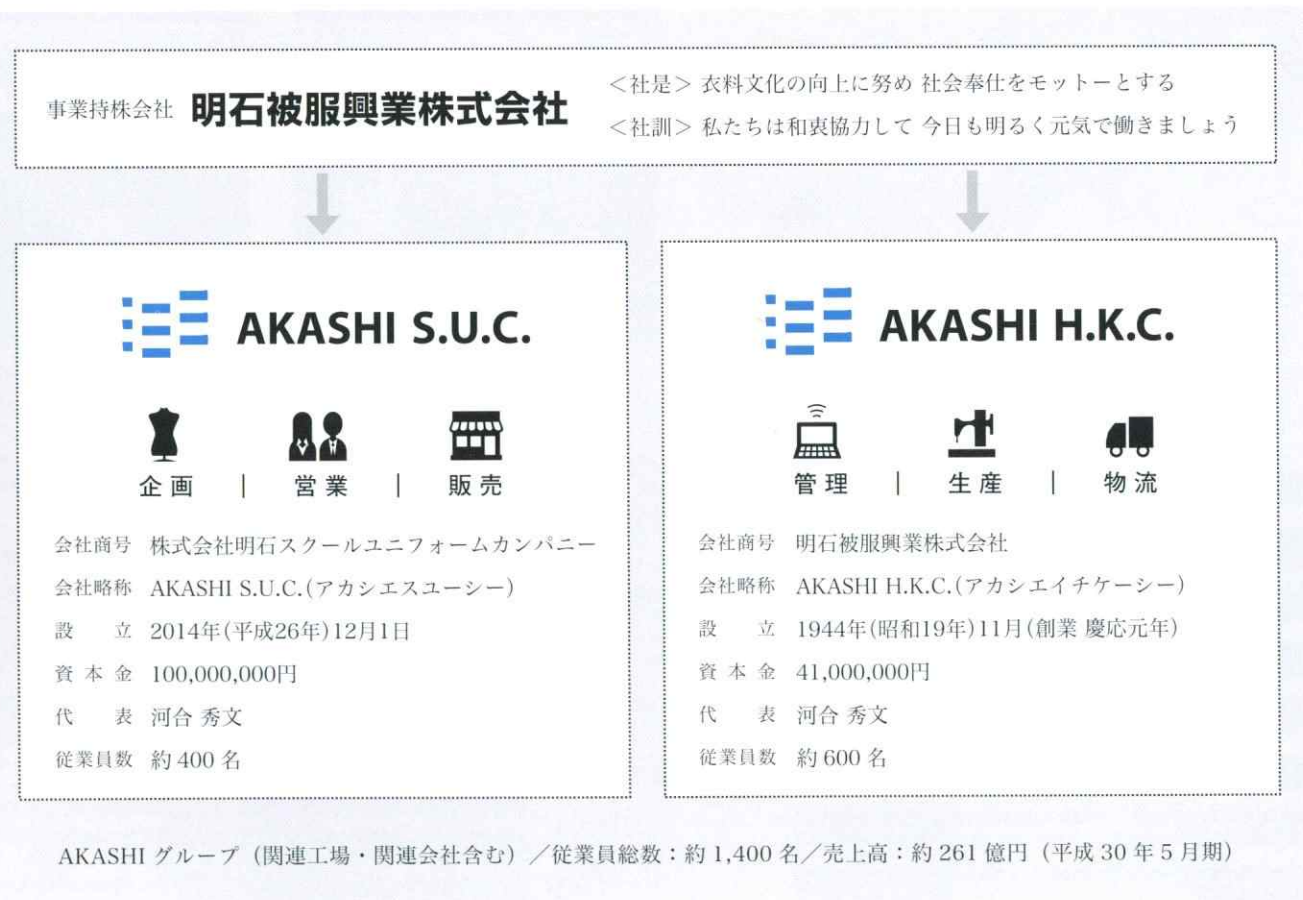
明石記念館

明石被服興業の被服創業60周年の記念事業として、これまでの社業の変遷と、昭和の事業拡大期を製品やパネルなどで紹介する「明石記念館」を開館しました。昭和16年に建設されたなまこ壁の土蔵を改修した館内に入ると、懐かしい富士ヨット学生服の資料などが一堂にご覧いただけます。今日の制服文化を学ぶ社員教育の場として利用され、また、学校関係者や繊維・流通業界の方々にもご覧いただけます。



河合美術館

第五代社長・河合正照は、「真に美しいものは、人々の心に豊かな潤いをもたらす。芸術は即ちコミュニケーションである」という信念のもと、多くの芸術家と交流をしていました。長年にわたり収集された美術品は、いつしか「河合コレクション」と呼ばれるようになり、これらを展示するために、被服創業70周年を機に設立された「河合美術館」は、社員研修の他、来社されるお客様のくつろぎの空間として活用されています。







株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー

本社 / 〒711-8611 岡山県倉敷市児島田の口1丁目3-44

TEL:086-477-7702(代) FAX:086-477-5663 URL:[www.akashi-suc.jp](http://www.akashi-suc.jp)

○諸事情により、予告なく記載内容の改訂を行うことがありますのでご了承ください。

○2018年9月3版